

313
a
20

議院講義 1-2

法

国立国会図書館

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始



219680

穗積
八東氏

議

院

法

講

義

第一



20

313
20



27639

議院法講義

明治二十二年六月十八日

前回ヲ以テ憲法ノ講義ヲ畢リタレハ約ニ遵ヒ本日ヨリ議院法ノ講義ニ取掛ラン

議院法ハ法律ノ形式ヲ以テ發布セラレタルモ其本質ニ至リテハ彼ノ諸官省官制若クハ事務章程ト同ク議院ノ執リ行フ可キ職務ノ順序方法ヲ定メタル成規ニ過キスシテ他ノ純然タル法律ノ如ク一個人ト政府トノ間若クハ一個人間ニ於ル權利義務ノ關係ヲ定ム可キ性質ヲ有スルモノニ非サルナリ去レハ之ヲ説クニ當リテハ強テ字句ニ拘泥シテ解釋ヲ與フルヲ主トセス寧ロ實際ニ於テ議院カ議事ヲ行ヒ其他ノ事務ヲ執行スルニハ如何ナル順叙手續ニ依ルカヲ解

説スルヲ必要トス余ノ講義ノ目的モ亦此ニ存スルナリ

元來議院法ハ帝國議會ノ職權及ヒ議員相互間關係ノ原則ヲ規定セ
ルモノナリ故ニ各議院ハ本法規定ノ範圍内ニ於テ職務ヲ執リ且其
職務執行ニ便宜ナル方法ニ從フハ固ヨリ其自由トスル所ナリ蓋シ
議院法ヲ法律ノ形式ヲ以テ發布シ敢テ議院ノ所定ニ放委セサル理
由ハ啻ニ議院内部ノ整理ヲ重ニスルニ在ルノミナラス或ル事項ニ
關シテハ特ニ官府ニ對シ重要ノ關係ヲ有スルモノ有リ又タ議院ノ
秩序亂雜ニ流レ職權ヲ濫用スルノ虞アリ又議院自身ニ屢其規定
ヲ變改スルノ不都合アリテ之レヲ防カンニハ豫メ一定不動ノ原則
ヲ定ムルヲ要スルニ在ルナリ此ノ如ク議院ノ職務ニ關スル規定ノ

原則ヲ定メ豫メ公布式ヲ以テ之ヲ公布スルハ立憲國ノ通例ナルカ
如シ

議院ノ職務ニ關スル總テノ規則ハ決シテ此議院法ノ各條項ヲ以テ
盡セリト爲サス議院カ議事ヲ行ヒ其他總テノ事務ヲ處辨シ以テ職
掌ヲ盡サンニハ議院法ノ外尙ホ事務章程及ヒ細則等ノ設ケ無カル
可ラス故ニ本法ヲ明カニ會得センニハ漫ニ字句ノ穿鑿ニ汲々セン
ヨリ寧ロ其實際ノ如何ンヲ精査スルニ如カス然ルニ一旦細則ノ制
定セラル、有リトモ之ヲ實行シタル後其便不便ヲ試ミルニ非サレ
ハ又實際ノ如何ヲ詳カニスルヲ得ス去レハ余カ本法ヲ講説スルノ
目的ハ只此法律ノ精神ヨリ推シテ實際ノ順序手續ヲ搜リ出スニ在

議院法ヲ法律ノ形式ヲ以テ發布スルハ必シモ各國普通ノ例ニ非ス
或ハ之ヲ議院ノ自主權ニ全委スルノ例ナシトセス又時トシテハ之
ヲ憲法ノ一部ト爲スノ國ナキニ非サレトモ若シ憲法ノ一部ト爲ス
トキハ必要ノ場合ニ於テ之ヲ改正スル毎ニ憲法ヲ改正スルノ不穩
ナル結果ヲ免レス故ニ我國ニ於テ議院法、貴族院令共ニ之ヲ憲法
ト分別セルハ實ニ其當ヲ得タリト謂フ可シ

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

本章ハ衆議院貴族院ノ兩議院ハ毎年如何ナル手續ニ依リ其事務ヲ
開始スルカ其順序手續ヲ規定セルモノナリ

○第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クト

モ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

帝國議會召集ノ勅諭ハ必ス集會ノ期日四十日以前ニ發布セララル、
モノトス本條ニ「少クトモ」ノ文字アルヲ以テ必ス四十日以上日數
ノ猶豫ヲ與ヘテ召集ノ勅諭ヲ發セララル、ノ意明カナリ斯ク開會ト
勅諭トノ間四十日ヨリ少カラサル日數ヲ與フルヲ要スルハ格段ナ
ル理由アリテ然ルニ非ス只集會ニ向テ便宜ヲ與フルニ外ナラサル
ノミ已ニ此原則ノ確定セララル、カラハ臨時緊急ノ場合ニ召集セラ
ル、臨時會ニ就テモ亦之ヲ適用セララル、コト當然ナリト思惟ス且
別ニ明文ヲ存セサル限りハ常會臨時會ヲ問ハス如何ナル場合ニ於

テモ本條ノ日數ヲ短縮スルヲ得サルノ精神ナリト信スルナリ
 勅諭發布ト集會期日トノ間ニ與フル日數ノ起算點ハ勅諭ノ日付ニ
 在リテ彼ノ法律實施期日ノ如ク到達日數ノ猶豫ヲ存セシメサルモ
 ノト思考ス

○第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議
 院ノ會堂ニ集會スヘシ

議員召集ノ勅諭ハ某月某日議員ハ各議院ノ會堂ニ集會ス可シトノ
 意ヲ具ヘテ發布セララル、モノトス該勅諭ノ發セララル、ヤ議員ハ之
 ニ應シテ期日マテニ各議院ノ會堂ニ集會スルハ即チ議員ノ義務ナ
 リトス尤モ之ニ應スルト否ナトハ各議員自ラ義務ヲ果スト果サ、

ルトニ關セリ其召集ニ應スルノ義務ヲ果サ、ルトキ之ニ加フルノ
 制裁アリヤ如何ン假リニ之レ有リトセハ其ハ如何ナル制裁ナリヤ
 此等ハ總テ他ノ法律ノ規定ニ屬シ到底本條ノ明文ノミヲ以テ明言
 スル能ハサル可シ但議員ハ召集ノ勅諭ニ應ス可キ義務ヲ有スルコ
 トハ本條ニ依リ已ニ判然タリ

「各議院ノ會堂ニ集會スヘシ」ト明記セルカラハ必ス期日マテニ已
 ニ定メラレタル議院ノ會堂ニ參集セサルヲ得ス故ニ假リニ議院ノ
 所在地ヲ東京トセハ東京マテ又他ノ地方トセハ其所在ノ都府マテ
 參集スルヲ以テ足レリトセサルナリ

○第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各、三名ノ

候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務
ヲ行フヘシ

本條ハ衆議院ノミニ就キ設ケタル規定ナリ

「衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ」
云云ノ明文ノミヲ以テ解スルトキハ議長副議長ノ候補者ハ必シモ
議員中ヨリ選舉ス可キモノナルヤ否ヤヲ明カニセサレトモ本條ノ
法意ヨリ解シ來ラハ之ヲ議員外ヨリ選舉シ以テ裁可ヲ乞フヲ得ス
シテ必ス之ヲ議員中ヨリ選舉セサル可カラサルコト明ケシ
此ニ疑ハシキ一點ハ三名ノ候補者ヲ選舉シ其中ノ一人勅任セラレ

タルトキ其勅任セラレタル者之ヲ辭スルヲ得ルヤ否ヤノ問題是レ
ナリ細則ノ制定セラレサル今日ニ於テハ俄ニ兎角ノ判斷ヲ下シ得
サルモ實際上ヨリ推考スルニ已ニ三名ノ候補者ヲ選舉シタル以上
ニハ當選者ハ必ス勅任ニ應スルノ決意アリシニ相違ナケレハ彼レ
ヲ強テ其任ニ應セシムルモ敢テ不都合ナカラント思ハル之ニ反シ
若シ任ヲ辭スルヲ得トセハ其後ノ處分ニ就キ更ニ一問題ノ起ルヲ
免レス即チ甲乙丙三人ノ候補者中甲者勅任セラレタルニ之ヲ辭シ
タルトキハ他ノ丙乙二人中ノ一人ヲ勅任ス可キカ將タ新ニ三名ノ
候補者ヲ選舉シ更ニ其中ノ一人ヲ勅任ス可キカノ疑問ヲ生シ得ヘ
シ本條ニシテ眞ニ辭職ヲ許スノ法意ナリトセハ余ハ新ニ三名ノ候

補者ヲ選舉セシムルコソ至當ナラメト思考スルナリ

「之ヲ勅任スヘシ」トハ恰モ官吏タルノ資格ヲ與フル如ク解セラルルモ此ニ所謂ル勅任トハ貴族院令ノ各條ニ散見スル「勅任セラレタル者」ト云フト其意ヲ同フシ寧ロ勅選ノ意ナリ故ニ本條ノ勅任ナル語ヲ以テ彼ノ勅任、奏任、判任等任官上ノ段階ト同視セサランコトヲ要ス獨逸帝國中ノ或小國ノ例ニ依レハ衆議院ノ議長副議長ハ官吏ナルコト有リ又議員外ノ人ヲ以テ之ニ任スルコト有リ此場合ニ於テハ我議院法上ニ於テ勅任タル書記官長議長ノ職務ヲ行フ場合ト同ク議長ハ官吏トシテ議場ニ臨ミ議事ヲ監督整理スルモノトス我制ハ則チ之ト同シカラサルニ注意センコトヲ要スルナリ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フモノナリ其書記官長ノ職務權限ハ第二章ノ定ムル所トス「勅任セラルルマテ」トハ初メテ議會ヲ開設シタルトキ又ハ議會解散セラレタルトキニ限り生スル場合ナリ元來議長副議長ハ必シモ議會ノ會期毎ニ改選セラル可キモノニ非ス衆議院ニ於テハ一タヒ勅任セラレタル以上ハ四年間其職ヲ繼續スルモノナレハ其任期ノ間ハ如何ナル場合ニ於テモ書記官長代テ職務ヲ行フコト無シ若シ任期間議長副議長俱ニ疾病其他ノ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シテ議長ノ職務ヲ行ハシムルコトハ後條明記スル所ノ如クナルヲ以テ書記官長ナシテ議長ノ職務ヲ行ハシムルハ幾ント非常ノ場合ノミニ限り

屢^レ遭遇ス可キニ非サルナリ

○第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

各議院ハ總議員ヲ數部ニ分割シ其分割シタル各部ニ部長各一名ヲ互選シ以テ事務ノ進捗ニ便スルモノトス總議員ヲ各部ニ分割スルノ制ハ之ヲ外國ノ例ニ徵スルニ其源ハ佛國ニ發シ漸次歐洲諸國ニ傳播セルモノ、如シ蓋シ佛國ハ英國ノ如ク全院委員即チ議員全體ヲ以テ委員タラシムルノ制ナシ故ニ便宜ノ爲メ常ニ總議員ヲ數部ニ分割シテ事ヲ議セシムルノ制ヲ設ケシナリ外國ノ例ニ依レハ各部ノ要ハ議員ノ資格ヲ審案スルコト又ハ相當ニ議員ニ選舉セラレ

シヤ否ヤ其選舉ノ當不當ヲ査定スルコト又ハ委員(常任委員特別委員)ノ選舉ヲ行フコト其他院内ノ取締ヲ議シ會議ヲ通知シ議事日程ヲ定ムル等各種ノ事項ニ就キ豫メ圓滑ナル協議ヲ行ヒ事務ノ便宜ヲ謀ルニ在リ

本條ノ部會ハ下章ニ定ムル諸種ノ委員ト全ク別異ナルモ法律上敢テ格段ナル價值ヲ有スルニ非ス之ニ反シ委員會ノ議決ニ至リテハ特種ノ價值ヲ有セリ要スルニ議員ヲ數部ニ分ツハ總議員ノ區々ナル意見議論ヲシテ圓滑ニ協和セシムルノ目的ニ出テ敢テ各部ノ地位ニ向テ時^特ニ重キヲ致セルニ非サルナリ

又外國ノ例ニ依ルニ部長部内ニ書記役員ヲ置クヲ得ルモ其地位ハ

尙ホ部内ノ一員タルニ過キス故ニ部内ニ於テ敢テ特別ナル威嚴權
力ヲ有スルモノニ非サルナリ但此等ノコトハ細則ノ制定ヲ待ツニ
非サレハ明カナリ難ク好シ細則ノ出ツル有リトモ其定ムル所ハ却
テ余ノ考フル所ノ反對ニ出ツルヤモ未タ知ル可ラス然レトモ各國
普通ノ成例ハ即チ大約上ニ陳ヘタル所ノ如キナリ

○第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ

日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フ
ヘシ

「兩議院成立シタルトキ」トハ兩院議員召集ニ應シ議院ニ集會セル
後ト云フノ意味ニシテ要スルニ勅命ヲ以テ帝國議會ヲ開會セシメ

其日ニ於テ兩院議員ヲ貴族院ニ集メ貴族院議長之カ議長ト爲リ開
院式ヲ舉行スルコトヲ定メタルノミ

開院式ハ帝國議會ヲ開會スルノ標準ニシテ強チニ已ニ成立セルモ
ノニ向テ開會ノ式ヲ擧ケシムルニ非サルナリ

議員召集ニ應シ期日ニ於テ議院ノ會堂ニ會合シ開院式ヲ行フタル
後始メテ議長副議長ヲ選舉シ委員ヲ定ムル等總テノ議事ヲ開クモ
ノニシテ恐クハ豫メ議長副議長ヲ選舉シ其他總テノ準備ヲ整備セ
シメ何時議案ノ提出セラル、モ支障ナカラシメタル後ニ開院式ヲ
行フニ非サル可シ是レ余カ外國ノ例ニ依リテ推考スル所ナリ

○第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行

兩議院成立シ相會合シテ事ヲ執ルニ當リテハ貴族院議長議長ノ職ヲ行フハ各國普通ノ慣例ナルカ如シ本條ノ場合ニ於テ貴族院議長兩院議長ノ職ヲ行フトモ其位地ニ變更ヲ與フルモノニ非ス只是レ便法ナルノミ

凡ソ兩院ノ議事議決ハ各別ニ行フモノニシテ其各別ノ議事議決ヲ合シテ帝國議會ノ議事議決ト爲スナリ要スルニ兩院相會合スルハ單ニ儀式ニ係リシ時ノミニ限り議案ノ逐條議決ニ就キ此例ヲ用弗ルコト無シ故ニ本條ノ規定アリトモ之カ爲メ兩院議事ノ性質ニ變更ヲ與フルコト無シトス

第二章 議長書記官及經費

本章ハ各議院ノ議長書記官等ノ職權ノ大體及ヒ帝國議會ニ關スル費用ノ如何ンヲ定メタリ

○第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

本條ハ讀テ字ノ如ク兩議院トモニ議長副議長各一員ヲ置クコトヲ示セルニ過キス

○第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

衆議院ノ議長副議長ハ其議員中ヨリ選舉スルモノナリ即チ議員ノ資格アルカ故ニ議長ノ地位ヲ有ツモノナレハ若シ議員タルノ資格ニシテ一旦消滅セハ議長タリ副議長タルノ資格ハ共ニ消滅ニ歸ス

ルハ理ノ明カナルモノナリ之ヲ任官ノ例ニ照ラセハ恰モ議員ハ本官ニシテ議長副議長ハ兼官ナルカ如シ但如何ニ便宜ノ爲メナレハトテ議員ノ任期ヨリ短キ任期ヲ以テ議長副議長ヲ改選スルヲ得ス然レトモ任期盡キタル後同一ノ人再選セラル、ハ決シテ妨ケ無シ此事タル別ニ正條ヲ以テ之ヲ示サ、ルモ本條ノ精神ヨリ考察シ來ラハ其意甚タ明瞭ナラン

此ニ一言ヲ付スヘキモノ有リ貴族院ノ議長副議長ハ貴族院令ノ明文ニ依リ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララル、コト明瞭ナリ蓋シ貴族院議員ハ世襲議員終身議員其多數ニ居リ有任期ノ議員其數少シ故ニ若シ衆議院ノ如ク議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ

• 27639

依ルト爲サハ多數ナル世襲議員終身議員ニシテ一タヒ議長副議長ノ選ニ當リタルトキハ其職ヲ終身ニスルノ不都合ナル結果ヲ免レス是レ貴族院令ハ特ニ議長副議長ノ任期ヲ定メテ七箇年ト爲セル所以ナラン

○第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

一タヒ議長若クハ副議長ノ選ニ當リ勅任ニ應シテ就職シタル後自己ノ都合ヨリ其職ヲ解カル、カ又ハ已ムヲ得サル事項ノ發生ニ依リ資格ヲ失ヒタル場合(別ニ強迫ノ明文ナキ以上ハ任期ノ中間ニ

於テ職ヲ辭スルハ敢テ法律ノ妨ケサル所ナリニ於テハ新ニ議員
 中ヨリ議長若クハ副議長ヲ選舉セサルヲ得ス其新ニ選舉セラレタ
 ル者即チ繼任者トシテ上任シタル議長若クハ副議長ノ任期ハ之ヲ
 四箇年トセス其辭職又ハ資格ヲ失ヒタル前任者ノ殘任期ニ止マル
 モノトス即チ補缺議員ト同一ノ道理ニ依リ斯クハ定メタルモノナ
 ラン

○第十條 各議院ノ議長ハ其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整
 理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

本條ハ議長タル者ノ職權ニ於ケル大様ノ方向ヲ示セルナリ
 議長ハ議院内ノ秩序ヲ保持スル爲メ議院法及ヒ細則ニ依リ議院全

體ヲ取締リ且議事ヲ整理スルニ於テ十分ナル權力ヲ有セリ其權力
 ハ各官省長官カ其官衙内ヲ取締ルノ權力ヨリモ一層ニ廣クシテ且
 大ナリ其ハ下ノ各條項ニ於テ大概ヲ示セルノミナラス猶ホ細則ヲ
 以テ細密ニ規定セラル可シ

蓋シ議長議院内ニ於テ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理スルハ最モ重大ナ
 ル職權ナリ然レトモ議院外ニ向テ議院ヲ代表スルノ職權ノ區域ニ
 至リテハ極メテ狹小ナリ元來議院ハ裁決官府ノ一部ナラサルヲ以
 テ議院全體トシテ人民ト直接交渉スルヲ得ス又行政官司法官ト直
 接ニ往復スルヲ得ス若シ必要ナル場合ニ於テハ最上級官府ナル國
 務大臣トノ間ニ往復スルヲ得ルニ止マルヲ以テ彼ノ府縣知事カ其

下ニ屬スル官府即チ郡長戸長ト往復スル如キコトハ議院ノ一切爲シ得サル所ナリ去レハ院外ニ對シ議院ヲ代表スルノ區域ハ最モ狹小ニシテ僅ニ其議決ヲ政府ニ奉呈シ又ハ上奏、建議ヲ爲シ若クハ人民ヨリ呈出スル請願ヲ受クル等二三ノ場合アルニ過キス但此他ニ議院ヲ代表スル場合ナキニ非サレトモ個ハ是レ社交上ノ代表ナルノミ例ヘハ開院式ニ於テ議長ノ名ヲ以テ議院全體ノ決意ヲ表スルカ如シ此等ハ敢テ法律上ニ關係ヲ有セザルモノトス

○第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

元來帝國議會ハ開會ト同時ニ成立シ閉會ヲ行ハ、忽チニシテ成立

ヲ失フコトハ已ニ憲法ノ講義ニ於テ陳述シタル所ナリ其憲法上ノ主義ハ何レノ所ニ至ルモ決シテ變改セラル、コト無キヤ炳然タリ然レトモ此主義ハ議院ノ立法事務ニ適用スヘクシテ議院内部ノ事務ニ至リテハ必シモ每會之ヲ新ニスルヲ待タス即チ議院ノ事務ハ每會繼續シテ行ハスンハ實際ニ甚タシキ支障アルヲ免レサルヲ以テ議長ハ閉會ノ間ニ於テモ依然事務ヲ指揮スルノ職ヲ執ラサルヲ得ス之ニ反シ議員ハ閉會ノ間ニ於テハ一モ事務ニ參與スルノ義務ナク其身全ク自由ナリ

○第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

常任委員特別委員會ニ關スル詳細ハ後章其所ニ於テ説明ス可キモ今其大體ヲ言ヘハ特別委員會トハ或ル一定ノ事項ヲ調査スル爲メ臨時ニ設定セララル、ナ云ヒ常任委員會トハ議會々期ノ初頭ニ於テ院內事務ノ分擔ヲ定ムル爲メ設クルモノナ云フ外國ノ例ニ依レハ司法、財政、行政、軍事、豫算等恰モ行政部内ノ區別ノ如ク又參議院ノ區別ノ如ク之ヲ數部ニ區分シ以テ事務ノ便宜ヲ謀レリ

議長ハ何時タリトモ此等ノ委員會ニ臨席シ參考マテニ其意見ヲ發言論述スルノ權利アリ然レトモ決議ニ際シ決意ヲ表スル爲メ可否ノ數ニ加ハルヲ得サルモノトス其ハ種々ナル理由アリテ然ルナラシモ最モ見易キノ理由ハ委員會ノ獨立ヲ左右セサラシムルニ在リ

常任委員特別委員ノ外猶ホ全院委員ナルモノ有リ即チ議員全數カ委員ノ資格ヲ以テ事ヲ調査スル爲メニ設クルモノナリ此全院委員會ニ於テハ議長ハ表決ニ預カルノ權アルモ本條ハ只常任委員會特別委員會ニ就キ特ニ規定セラレ敢テ全院委員ノコトニ及ハサルナリ

○第十二條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

各議院ハ議長ノ外ニ副議長ヲ置クハ本條ニ規定スル代理ノ必要ニ出ツルモノニシテ議院法上敢テ特別ナル職權ヲ與フルモノニ非ス故ニ議長職ヲ執ルノ間ハ副議長ハ議員ト同一ノ資格ヲ保チテ議席

ニ列シ議長故障アルニ當リ其職ヲ代理スルモノトス

○第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

明文ノ示スカ如ク議長副議長俱ニ故障アルハ事實上免ル可ラサル數ナレハ若シ實際ニ斯ル場合ヲ生シタルトキハ假議長ヲ選ヒテ議長ノ職ヲ行ハシム此場合ニハ前章ニ規定セル書記官長議長ノ職務ヲ行フノ規則ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ前ハ議長全ク之レ無キ場合ニ係リ本條ハ議長副議長共ニ備ハリ只ニ故障アリテ一時職ヲ執ル能ハサル場合ニ過キサレハナリ獨逸帝國議會ニ於テハ議長副議長ナキカ又ハ未タ選舉セラレサルトキハ議員中職ニ在ルコト最

モ舊キ者假議長ト爲リ若シ又同一ノ人多數アラハ中ニ就キ最モ年長ノ者之ニ當リ眞ノ議長當選セラル、ニ及ヒテ職ヲ辭スルヲ例トス我制度ニ於テハ書記官長ナル別種ノ者アリテ代リテ議長ノ職務ヲ行フ場合アレハ彼レトハ稍其趣ヲ異ニセリ聊カ參考マテニ付説ス

○第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ議長副議長ノ任期ハ衆議院ニ於テハ四年貴族院ニ於テハ七年トス而シテ各其任期滿チタルトキハ直ニ後任者ノ勅任セラル、ヲ必要トス故ニ前議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル

、マテハ猶ホ其職務ヲ繼續セサル可ラス是レ已ムヲ得サル必要ニ出テタル便法ナリ蓋シ後任者ノ勅任セラレサルハ故障アルノ故ニ非サルヲ以テ前條ヲ適用シテ假議長ヲ選舉スルヲ得ス去レハトテ書記官長ヲシテ代理セシム可キ場合ニモ非ス是レ其職務ヲ繼續セシムル所以ナラン

○第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

各議院ニ書記官長及書記官ヲ置クハ事務ヲ掌理セシムル爲メニシテ書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トセリ

我制度ハ事務官ハ之ヲ議員中ヨリ選ハスシテ純粹ナル政府官吏ヲ

以テ之ニ任シ以テ議院一切ノ事務ヲ執リ行ハシム故ニ書記官長ヲ勅任スルハ議長ヲ勅任スルト大ニ其趣ヲ異ニセリ此制度ハ英國ニ行ハル、所ノモノニシテ佛國獨逸ハ必シモ此例ニ則ラス書記官長書記官ハ之ヲ議員中ヨリ選舉シテ其職ニ當ラシムルノ例ハ獨佛兩國ニ於テ往々見ル所ノ例ニシテ此書記官長書記官相集マリテ一ノ議院内監督ノ局部ヲ爲シ議院内ノ事務ヲ執リ行ヒ且院内ニ於テ警察權ヲ行フヲ職トセリ英國ノ習慣ハ獨佛ニ異ナリ書記官ハ幾ント純粹ナル官吏ニシテ全ク議員ノ資格ヲ離レ首トシテ議院ノ事務ヲ整理スルノ職ニ從事スルモノトス我制度ハ大ニ英國ノ制度ニ相似タリ即チ本法ハ議長ハ議員ニシテ書記官長書記官ハ官吏タルナリ

○第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス
書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

本條ハ書記官長及ヒ書記官職務ノ大様ヲ規定セルモノニシテ此條ノ範圍内ニ於テ更ニ事務ノ細則ヲ定メ始メテ書記官長書記官ノ職務及ヒ其順序ノ詳細ヲ明ニスルヲ得ヘキモノトス

議院内部ノ事務ハ總テ議長ノ職權ヲ以テ整理スルモノニシテ書記官長其他ノ職員ノ運動ハ一ニ議長ノ指揮ニ依ラサル無キナリ去レハ書記官長書記官ハ官吏ナルニ拘ラス常ニ議長ノ指揮ニ從フ可ク

決シテ直接ニ政府ノ命令ヲ奉行スルコト無キナリ

「議事録」トハ法律案其他總テノ議案ニ關スル議事ノ筆記ヲ云フ

「書記官ノ外他ノ必要ナル職員」トハ院内總テノ事務執行ニ要スル各種ノ職員ヲ云フ此職員ハ民法上ニ於ル雇人ノ法理ニ依ルカ又ハ他ノ方法ニ依ルカ兎ニ角議員外ノ人ヲ以テ充ツル所ノ職員ナリ但各國議院ノ制ニ於テ多少其軀裁ヲ異ニセリ歐洲大陸諸國ニ於テハ議院ノ職員ハ概テ議員ヲ以テ之ニ任シ議員ハ名譽職トシテ之ヲ擔任スルヲ例トス但シ「コンミツサート」即チ會計官ノ如キハ特別ナル方法ヲ以テ任用セリ此等各其國情ニ依リ宜キニ從フニ在レハ敢テ其間ニ可否ノ評論ヲ插ム可キニ非ス

○第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

帝國議會ヲ組成スル所ノ兩議院ハ憲法上ノ一機關タル議事體タルノ職ヲ執ルカ爲メニ成立スルモノニシテ俗説ニ稱スル如ク人民自ラ其意思ヲ發言スル爲メニ成立セルモノニ非ス去レハ帝國議會ハ彼ノ自治體ト大ニ性質ヲ異ニセルハ憲法ノ講義ニ於テ屢々開陳セシ所ノ如シ本條ノ如キハ即チ右ノ原則ヨリ流出スル所ノ一ナリ帝國議會ニシテ若シ自治體ト同ク人民自ラ團結集合シテ自己ノ權利ヲ執行スルモノナラハ其經費ハ自ラ之ヲ支辨スルコト固ヨリ當然ナリ例ヘハ近時新ニ施行セラレタル市町村制ニ依リ組織セル自治體ノ如キ法律上一個人ト同ク權利義務ヲ有シ從テ獨立シテ財產ヲ

有スルヲ以テ其經濟ノ如キモ自ラ處辨スルヲ得ヘシ若シ議會ニシテ之ト同ク權利義務ヲ有シ自ラ財產ヲ有スルヲ得ハ其經濟モ亦自ラ處辨セシメ得ヘキヤ當然ナレトモ如何ニセン議會ハ自治體ニ非サルヲ以テ自ラ財產ヲ有スルコトヲ許サ、ルノミナラス他ノ贈與ヲ受クルコトヲモ許サス加之各議院ニハ諸種ノ建造物其他書籍器具等ノ如キ幾多ノ物件ヲ要スルモ此等ハ總テ行政法ヲ以テ管理スル所ノ一ノ官有物ニ外ナラス然ラハ其經濟ノ如キモ自ラ之ヲ處辨ス可キニ非サルハ言ヲ竣タスシテ明カナリ

第三章 議長副議長及議員歳費

○第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二

千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

本條ハ議長副議長及議員ニ賠償スル爲メ與フ可キ金錢ノ額ヲ定メリ

元來帝國議會ノ議員ハ法律上ノ手續ニ依リ法律上ノ義務ヲ果行ス

ル爲メニ集會スルモノニシテ彼ノ俗說ニ言フ如ク人民各自ノ權利ヲ伸暢スル爲メニ集會スルニ非ス故ニ政府其費用ノ幾分ヲ賠償スルハ相當ナリ但シ此賠償ノ規則ハ官吏ニ俸給ヲ與フルノ規則ト大ニ理由ヲ異ニセリ本條ニ掲クル議員ハ固ト選舉ニ依リ上任スルモノニシテ人民カ徴兵ニ應スルト其法理ヲ同クセリ何トナレハ議員ト爲ルハ一方ニ於テ權利ナルモ一方ニ於テハ國民ノ義務ナレハナリ但其資格ヲ備フルニ種々ナル要件ヲ要スルノミ去レハ議員ト爲ルト兵役ニ服スルトノ區別ハ只法律ノ適用上ニ於ケル差異ニ過キスシテ其實選舉ハ恰モ徴兵ニ於ル抽籤ノ如キモノノミ是レ淡泊ナル法理上ノ見解ナリ

上ニ陳フル如ク歳費ハ徴兵ニ與フル實費ト同一ナレハ議長四千圓副議長二千圓議員八百圓ノ歳費ハ實際不足ナリトモ之ニ向テ苦情ヲ唱フルヲ得ス何トナレハ義務ヲ果行スル者ニ歳費ヲ給與スルハ其果行セル義務ヲ賠償スルニ在ラサレハナリ、然ルニ又官吏ノ俸給ハ議員ノ歳費トハ稍趣ヲ異ニセリ俗解者流往々官吏ト爲ルハ國民ノ權利ナリト説ケトモ是レ誤謬ノ説タルヲ免レス元來國民ハ官吏ト爲ルノ權利ヲ有セス又義務ヲモ負ハサルナリ政府カ官吏ヲ任スルハ只一個人某ヲシテ事務ヲ執リ行ハシムル爲メノ命令ニ過キスシテ其初メ政府カ若干ノ俸給ヲ以テ某ヲ官吏ニ任センコトヲ言ヒ其之ニ應諾スルニ依リ始メテ官吏タル資格

ヲ得ルモノナリ之ヲ公約ト云ヒテ總テ契約ノ種類ヨリ成立テルモノトス要スルニ國民タル者當然其他位ニ上ルノ權利義務ヲ有スルト否ラサルトヲ以テ議員ト官吏トノ間ニ存スル區別ヲ了解スルヲ得ヘシ豫メ此區別ヲ知ルニ非サレハ本條ノ法意ヲ會得スルコト能ハサルヲ以テ故ラニ此ニ數言ヲ費シタリ

第二項ハ命令的ノ語詞ヲ用井テ議長副議長及ヒ議員ハ歳費ヲ辭スルヲ得サルコトヲ定メリ貴族院令中被選及勅任議員ニ非サル議員ノ歳費ヲ受ケサル者有リ本項ハ即チ之レト區別アルモノナリ

第三項ハ讀テ字ノ如ク敢テ解説ノ加フ可キ無シ

第四項ノ「第二十五條ノ場合」トハ即チ各議院政府ノ要求ニ依リ又

ハ自己ノ決議ニテ閉會後尙ホ委員ヲ設ケテ議案ノ審査ヲ繼續スル
トキヲ云フナリ此場合ニ於テハ議員ハ議員タルノ資格ヲ以テ事ニ
從フノ義務ヲ有セス只政府ノ要求又ハ議院ノ決議ニテ委員トシテ
特別ノ煩勞ト時日トヲ費スモノナレハ議院ノ定ムル所ニ依リ一日
五圓ノ手當ヲ與ヘテ其賠償ノ幾分ニ充ツ是レ理ノ當ニ然ルヘキモ
ノナリ

0127

穗積 八束氏
議院法講義 第二

明治二十二年十月印刷 秀英舎印刷所

3
2

01270

513
20



27640

議院法講義

明治二十二年六月二十八日

前回ニモ陳述シタル如ク議院法ハ他日細則ノ補填アリテ始メテ効
 用ヲ完フスルヲ得ヘク單ニ本法ノ明文ノミヲ以テシテハ到底實際
 ノ運用ヲ窺ヒ知ル可ラス若シ今文字面ヨリ推考シ漫ニ議事ノ實際
 的事項ニ立入りテ註解ヲ施サンカ講義者私ニ議事細則ノ草案ヲ作
 ルノ罪ヲ免レス故ニ議院法ノ各條項ヲ講說スルニ當リ其程合ヲ見
 出タスハ講義者ノ最モ困シム所ナリ故ニ余ハ各條項ノ本旨ヲ害ハ
 サランカ爲メ務メテ文字面ノ意味ヲ説キテ其範圍外ニ馳サランコ
 トヲ期ス各位ノ幸ニ此意ヲ領知セラレンコトヲ希望ス

第四章 委員

委員ハ議院内一部分ノ事件ヲ取扱ハシムル爲メノ一區別ニシテ第一章ニ掲クル各部トハ稍其趣ヲ異ニセリ各部ノ制ハ歐洲中其源佛國ニ出テ他ノ大陸諸國ニ傳播セル所ノ制ナリ佛國ニ於テハ各部ノ制アリテ全院委員ノ制ナク之ニ反シ英國ニ於テハ全院委員ノ制アリ我國ノ制度ハ全院委員及ヒ各部ノ兩者アリ但其職務ノ明瞭ナル區別ハ細則ノ規定ニ屬セリ故ニ今日ニ於テハ各部ト委員トノ役目ニ於ル判然タル區別ハ此ニ説明スルニ由シ無シ假リニ外國議事體ノ慣習ニ據レハ總議員ヲ各部ニ分ツニハ抽籤法ヲ以テシ而シテ各部ノ職務ハ議員タル或一人ノ資格ハ相當ナル選舉ニ依リテ得タルモノナルカ如何ンヲ審査シ又ハ委員ヲ選舉スルノ手續ヲ定ムル

等ノ諸事ナリ但本法ニ於テハ議員ノ資格ヲ審査スルハ全院委員ノ掌ル所ニシテ前舉ノ如ク各部ノ職務ニ屬セス而シテ委員選舉ハ各部ノ掌ル所トス此他各部ニ於テ議按ヲ調査シ各部ノ議決定シテ後更ニ之ヲ全院委員會ノ調査ニ付スルコトハ外國ノ例ニ於テ之ヲ見ルモ我制度ノ果シテ如何ナル可キカ細則ヲ待ツニ非サレハ明カナリ難シ兎ニ角ニ本章ニ規定スル委員ノ種類ニ三アリ以下本條ニ入りテ之ヲ説カン

○第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三種トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

各議院ニ於テ設ク可キ委員ニ三類アリ即チ本條ニ掲クル全院委員、常任委員、特別委員是レナリ

全院委員トハ本條成文ノ示スカ如ク議員全體ヲ以テ組織シ之ヲ以テ一ノ委員會ト看做スモノヲ云フ偕テ何故ニ議員全體ヲ以テ特別委員會ヲ組織セシメ之ヲ普通ノ議員タルトキノ資格ト區別スルノ

要アリヤヲ考フルニ凡ソ議院ノ議事ハ最モ嚴肅ナル規則手續ニ從ヒ鄭重ニ之ヲ行フ可キモノニシテ若シ寸毫タモ其規則手續ニ觸ル、コト有ルトキハ議事議決ハ全ク無効ニ歸ス可シ然ルニ議員一タヒ其態ヲ變シ委員トシテ委員會ニ於テ事ヲ議スルニ當リテハ其人固ヨリ同一ナルモ發言討論ノ順叙方法ハ至テ自由ニシテ制限ノ緩裕ナルノミナラス委員長委員會ヲ整理スルニ於テモ議長カ議會普通ノ議事ヲ整理スルカ如ク嚴格ナラス要スルニ全院委員ノ制タル豫メ事ヲ調査スルニ當リ多數議員ノ意見ヲ求ムルニ窮屈ナラス圓滑ニ折合ヒテ得ルニ便宜ナルヨリ最初ニ英國ノ採ル所ト爲リ延ヒテ他ノ諸國ニ行ハル、ニ至リシナリ却說全院委員ノ職務ト特別委

員ノ職務トノ間ニハ確然タル限界ヲ存セス即チ一ニ於テ執リ行フ事項ハ必シモ他ノ一ニ於テ行ハスト拒絕スルモノニ非サラン故ニ同性質ノ事項ト雖トモ或時ハ全院委員會ニ於テシ或時ハ特別委員會ニ於テスルコト有リテ法律上敢テ制限ヲ存セサル可キナリ
 常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ各分擔ノ科ヲ定メ一會期中其任ニ當リ相變更セス而シテ各科委員ハ各其分擔ノ事項ヲ調査スルノ任ヲ負フモノトス然ルニ其分擔ノ仕方ハ細則ヲ待ツニ非サレハ明カナラス余ノ此ニ解説スル能ハサル所ナリ但貴族院衆議院共ニ本條ニ從フ可キハ第一項ノ成文ニ明カナレハ兩院各分科法ヲ以テ常任委員ヲ設クルハ已ニ疑フ可ラサルナリ且ヤ分科ノ數、選舉方法、決議

法及ヒ議事ノ順序手續ハ兩院各自ノ規定スル所ニ委シテ支障アルコト無キカ如シ外國ノ例ニ於テハ必シモ同一ナラサルナリ參考ノ爲メ外國ノ例ヲ示サンニ普魯士ニ於テハ上下兩院共ニ常任委員ヲ置ケリ上院ニ於テハ之ヲ八科ニ分チ第一科ハ議院内部ノ事務整理第二科ハ請願ニ關スル事項第三科ハ財政第四科ハ司法第五科ハ商業第六科ハ鐵道第七科ハ地方自治體ニ關スル事項第八科ハ農業以上ノ如ク分擔ノ科ヲ定メリ而シテ下院モ亦幾ント之ニ同シ只稍異ナルハ八分科ノ外豫算表及ヒ會計検査ノ二項ニ就キ各特別ノ委員ヲ設クルコト是レナリ故ニ上院ニ比セハ分科ノ數ハ二科ヲ増セリ以上普國ノ制ハ單ニ一例トシテ示セルニ過キスシテ獨逸帝國

各邦ノ制ハ必シモ普國ト一ナラス又歐洲諸國各種々ナル分科法ヲ取り其間多少ノ差異ヲ存スルヲ以テ敢テ普國ノ制ヲ以テ一定ノ模範ト爲ス能ハサルナリ

常任委員ハ如何ナル手續ヲ以テ選舉スルカト曰フニ即チ明文ノ示スカ如ク各部ニ於テ選出スルナリ其「各部ニ於テ同數委員ヲ」云々ト云フヨリセハ例ヘハ甲部ヨリ五人ヲ選ヒ又乙部ヨリ五人ヲ選フト云フ如ク各部ヨリ出ス所ノ被選人ノ數ハ同一ナルヲ要スルカ如ク見ユルモ決シテ然ル法意ニ非サルカ如シ其ハ何如ナリヤト問フニ次句ニ「總議員中ヨリ選舉シ」ト有ルヲ以テナリ故ニ本項ノ法意ハ被選人ハ必シモ同部内ノ人ニ限ラスシテ各部ハ各五人ノ議員

ヲ全躰ニ就キ選出スルニ在ルヤ明ケシ果シテ然リトセハ議員ノ一人ニシテ甲部ヨリモ乙部ヨリモ又丙部ヨリモ投票ヲ得一人ニシテ重複ナル多數ノ點ヲ得ルコト有ルトキハ其重複ニ得タルダケノ票數ハ他ニ於テ減スルノ理ナレハ時ニ依リ當選者ノ高ニ不足ヲ生スル場合ナキヲ保セス斯ル場合ニハ如何ノ處分ヲ用井ルヤ頗ル疑ハシキモ前ニモ屢述フル如ク細則ヲ待ツニ非サレハ兎角ノ判斷ヲ下シ得サルナリ試ミニ外國ノ例ニ依レハ各部ハ各部内ニ於テ定數ノ委員ヲ互選スルノ制ナレハ其重複ノ嫌ヒ無キヤ萬々ナリ本項ニハ明ニ「總議員中ヨリ」ノ文字ヲ存スルヲ以テ其互選ヲ用ウ可ラサルコト已ニ動カス可ラス

常任委員ノ任期ハ一會期ニ止マルハ又本文ニ依リ明瞭ナリ但第二十五條ニ規定スル如ク政府ノ要求ニ依リ又ハ議院全體ノ同意ヲ經テ閉會中モ尙ホ委員會ヲ存シテ議案ノ審査ヲ繼續スルヲ得ルハ勿論ナリト思惟ス

特別委員トハ成文ノ如ク一事件ヲ審査スル爲メ臨時ニ選定スル所ノ委員ナリ其選舉方法ハ常任委員ニ於ル如ク各部ニ於テ同數ヲ選フモノナリヤ將タ他ノ方法ニ依ル可キヤ明文之ヲ示サ、ルヲ以テ一ノ疑問トシテ存スルノ外ナシ而シテ委員會カ法案ヲ議スルニ當リテハ多數決々議法ヲ用井ルナランモ通常議會ニハ法律案ニ就テハ議員三分ノ一ノ出席ニ於テ其中ノ多數決ニ依ル等詳細ノ規定ヲ

存スレトモ該規定ハ盡ク之ヲ委員會ニ適用シ得ヘキヤ否ヤ孰レニ説明スルモ明文ニ觸レサル如キモ是レ又細則ノ制定セラル、ニ非サレハ判然タル解釋ヲ下シ得サルナリ

總テノ委員會ニ於テハ役員即チ委員長及ヒ書記等ノ事務官ヲ委員中ヨリ選舉スルコトハ已ニ疑フ可ラス又委員會カ事ヲ議決シタルトキ其經過及ヒ議決ヲ十分明瞭ニ報告ス可キハ後條ノ成文ニ依リ明亮ナリ然レトモ其報告ハ書面ヲ以テス可キカ口頭ヲ以テス可キカ明文ノ示ス所ナキヲ以テ見レハ或ハ口頭ニ依ルモ可ナルカ如シ但外國ノ例ニ依レハ議院ハ印行シタル報告書ヲ請求スルノ權利アリテ委員會其請求ヲ受ケタルトキハ必ス一定ノ日限内ニ報告ヲ爲

スノ義務アリトノ規定ヲ存スルノ國アリ我制ノ如何ンハ細則制定
ノ後ニ非サレハ明瞭ナリ難キナリ

○第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ
之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス
全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始メニ於テ之ヲ選舉シ以テ全員委
員會内ノ總テノ事項ヲ掌ラシムルナリ故ニ議長及ヒ副議長ハ全院
委員ヲ監督整理スルノ關係ナク其職ニ當ル者ハ前段ノ方法ニ依リ
委員中ヨリ選舉セラレタル委員長ナルノミ
常任委員長特別委員長ハ各委員會ノ互選ニ依リ之ヲ定ムルナリ而

シテ其互選法ハ普通ノ手續ヲ用井ルカ將タ各委員會ノ便宜ヲ以テ
特ニ定ムルカ細則ノ定ムル所ニ依ルナリ

○第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會
及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ
議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

「全院委員會ハ議院三分ノ一以上」ト有ルヲ以テ出席ノ數三分ノ一
アラハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スヲ得ヘシ換言スレハ三分ノ一ニ達シ
タル員數ハ議事ヲ開キ得ヘキノ數ナリ

常任委員會特別委員會ハ各委員ノ半數以上ノ出席ヲ要ス即チ半數
ハ議事ヲ開キ得ヘキノ數ナリ然ルニ其議事議決ヲ行フノ手續ニ於

テハ疑點頗ル多シ第一議決ハ過半數ヲ以テスルナランモ若シ全ク可否ヲ發言スル者ナカリシトキハ如何ン此場合ニ於テモ猶必ス可否ヲ問フモノナリヤ又過半數決トスルモ過半數ハ其議事ニ就キ必ス可否ヲ發言シタル者ノ中ニテ算スルヤ將々出席總員ニ就キ之ヲ算スルヤ例ヘハ出席員八人ナレハ五人以上ヲ過半數ト爲ス乎此等ノ詳細モ亦細則ノ示ス所ニ從ハサルヲ得サルナリ兎ニ角ニ議事ヲ開キ議決ヲ爲スニ就キ議場ヲ整理スルハ委員長ノ職ナル可シ何トナレハ委員長ハ委員會以外ニ對シ責任ヲ負フ可キ者ナレハナリ

○第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコト

ヲ得

凡ソ委員會ノ議事ハ議員ノ外傍聽ヲ禁スルハ一般ノ通則ナレトモ又議員ニ限り傍聽ヲ許スハ必シモ各國普通ノ規定ナリト斷言シ難シ國ニ依リ委員會ノ議事ハ全ク秘密ト爲シ議院ノ内外ヲ問ハス委員外ノ者ヲシテ盡ク傍聽セシメサルノ規定ヲ存スルモノ有リ本條ノ規定ニ依レハ或場合ニ於テハ特ニ傍聽ヲ禁シ得ルモ其禁セサル限リハ議員ハ一般ニ傍聽ノ權利ヲ有スト爲セリ

又議長副議長ハ議員タル資格ヲ兼テ有スルヲ以テ議員ト同ク傍聽ヲ許サレ又ハ禁セラル、モノナラン外國ノ例ニ依レハ議長副議長ハ常任特別兩委員會ノ議事ニ參與スルノ權ナキモ之ニ臨席シ發言

スルハ何時ト雖トモ其自由ナリ我制モ亦然リトス
 他ノ議員ハ傍聽ヲ許サル、マテニシテ委員會ニ於テ發言スルヲ得
 ス但特ニ發言ノ許可ヲ得タルトキニ於テ發言スルハ敢テ不可ナカ
 ラン詳言スレハ若シ細則ニ於テ通常議員ヲ委員會ニ臨席セシメ其
 發言ヲ許スコトヲ規定セルモ敢テ此法ニ觸ル、モノナラスト信ス

○第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報
 告スヘシ

委員長ノ職務ハ委員ノ議事ヲ整理シ其經過及結果ヲ議院一般ニ報
 告スルニ在リ「委員會ノ經過及結果」トハ議事通過ノ有様及其議決
 ノ成績是レナリ委員長ハ即チ議院ニ對シ十分ニ之ヲ報告スルノ義

務ヲ負ヒ議員ハ其報告ヲ請求スルノ權利ヲ有セリ若シ夫レ細則ヲ
 以テ或場合ニ於テ議員ハ委員長ニ向テ書取若クハ印行シタルモノ
 ナ以テ報告セヨト請求スルノ權利ヲ與フルモ決シテ此法ニ抵觸ス
 ルコト無シト考フルナリ

○第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ
 經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシム
 ルコトヲ得

委員會ハ一會期コトニ改マリ其職モ亦一會期內ニ於テ終了ス可キ
 モノタリ是レ委員會ニ於ル特例ニ非スシテ議事體本來ノ原則ニ出
 ツルモノトス即チ議事體ハ必ス其會期ヲ以テ議事ヲ決了ス可ク假

令決了セサルトキ有ルモ次ノ會期マテハ議會ヲ繼續スルヲ許サ、
ルヲ以テ原則ト爲スナリ

然ルニ事ノ必要ヨリ委員會ノ審査ヲ繼續セシムルノ要アリテ政府
ヨリ之ヲ要求スルカ又ハ議院ノ同意即チ決議ニ出ツルトキハ委員
會ハ議會閉會ノ間ト雖トモ審査ヲ繼續シ其他ノ事務ヲ執行フヲ得
ヘシ此規定ハ即チ原則ノ例外トシテ存スルモノナリ普通ノ場合ニ
於テハ次ノ會期マテノ間ニ審査ヲ斯々ノ事件マテニ及ホサント要
スルノ故ヲ以テ委員會ヲ繼續スルヲ得ス何トナレハ一會期間ニ至
當ニ議決セラレタル事項ハ會期ノ終ルト同時ニ終結シテ議決ノ効
力確定シ次ノ會期ハ次年ニ於テ新ニ開始シ其際審査ヲ要スル事件

アラハ新ニ之ニ着手スルヲ原則ト爲セハナリ

第五章 會議

會議ノ規則ハ他ノ事項ニ比シ一層細密ニ規定スルニ非サレハ完全
ナル議事ノ經行結果ヲ見ル能ハサル可シ特ニ本章ニ規定スル事項
モ亦細則ノ補充ヲ要スルコト論ヲ竣タサルナリ

○第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院
ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニス可シ但シ
他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ
此ノ限ニ在ラス

各議院ノ議長ハ議事ヲ監督整理スルノ職分ヲ以テ議事日程ヲ定メ之ニ據リテ議院内部ニ於ケル諸般ノ事ヲ執行フハ議事體普通ノ規則ナリ

議事日程トハ議院ノ議決ス可キ議案ノ順序ヲ定メタルモノニシテ議院ハ日程ニ定メタル順序ニ依リ議事ヲ行フモノトス而シテ此議事日程ハ政府ノ同意ヲ得ルニ非サレハ變更スルヲ得サルナリ
議長ハ豫メ議事日程ヲ以テ議事ノ順序ヲ定メ議院ニ報告シテ之ニ據ラシムルコトヲ請求シ得ヘシ其議事ノ順序ハ政府ノ提出ニ係ル議案ヲ先ニスルヲ以テ本則ト爲ス但緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得テ本則ノ順序ヲ變更スルコトハ例外トシテ之ヲ行フヲ得ヘシ

其他委員ノ報告ニ係ルモノハ政府提出ノ議案ニ次キ他ノ議案ニ先
タチテ議事ヲ行フコトヲ細則ヲ以テ規定スルハ外國ニ於テ多ク見
ル所ノ例ナリ本法モ單ニ政府ノ提出ニ係ル議案ヲ先ニスルコトノ
ミヲ定メテ其他ノ議案ノ順序ヲ定メス個ハ細則ヲ以テ明ニスルノ
意ニ出テシナラン

○第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ
但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ依リ議院ニ
於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルト
キハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

法律ノ議案ニ關スル議事議決ハ他ノ議案ノ議事議決ニ比シ特ニ鄭

重慎密ヲ加フルヲ要スル固ヨリ然リ故ニ本條ハ法律ノ議案ハ必ス
 三讀會ヲ經テ議決ス可キヲ命シタリ斯ク三讀會ノ順序ヲ經ルヲ必
 要トスルハ即チ議事ヲ鄭重ニスルノ旨趣ニ外ナラス即チ第一讀會
 ニハ議案ノ大體ヲ論定シ質議ヲ以テ疑點ヲ解釋シ第二讀會ニ移リ
 テハ議案ノ各條項ヲ逐ヒテ可否ヲ討究シ更ニ第三讀會ニ入りテ可
 否ノ議論ヲ確定スルナリ此ノ如ク三次ノ讀會ヲ經ルコトハ多數會
 議ニ於テハ殊更ラ必要ナリトス但此順序ヲ省略シ得ヘキハ本條ノ
 示ス所ニ依リ明カナリ

三讀會ノ順序ヲ省略シ得ル場合ハ政府ノ要求ニ出タルカ若クハ議
 員十人以上ノ要求ニ由リ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決

• 27640

シタルトキニ限レリ斯ク法律上確然明示セラレタル場合ノ外ハ必
 ス三讀會ヲ經ルヲ要スルコト已ニ動カス可ラス但此規定タル固ト
 法律案ノミニ對スルモノニシテ議院ノ議事ハ議案ノ如何ナル種類
 ナ問ハス總テ之ニ準依ス可シト云フニ非サルナリ故ニ細則ニ於テ
 某々ノ議案ハ二讀會ヲ以テ確定シ得ヘク某々ノ議案ハ一讀會ヲ以
 テ確定シ得ヘシト規定スルハ法律案以外ニ向テ爲シ得ヘク又外國
 ノ例ニ於テ往々遭見スル所ノ例ナリ

○第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經
 スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ
 政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

本條ハ政府ヨリ提出シタル法律案ハ必ス委員ノ審査ニ付スルヲ要スルノ規定ナリ外國ノ例ヲ見ルニ啻ニ法律案ニ止マラス法律案ト爲ル可キ案モ猶之ヲ委員會ニ付シテ審査セシメ然ル後議事ニ取掛ラシムルヲ通則ト爲セリ本條ノ規定ニ依レハ普通ノ議案ニ就キテハ審査ノ手續ヲ經ルヲ要セサルモ政府ノ提出セル法律案ハ決シテ然ルヲ得ス且但書ニ「政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス」ト明記セルカラハ政府提出ノ法律案ニ就テハ假令十人以上ノ同意ト出席議員三分ノ二以上ノ可決トヲ以テスルモ決シテ審査ノ手續ヲ省畧スルヲ得サルヤ明白ナリ

凡ソ議案ヲ審査スルハ議事ヲ鄭重ニスルニ在リ故ニ議院ハ豫メ委員ノ事務ヲ司法、行政、財政、農工商、地方自治政務、請願等ノ諸科ニ分チ其任ニ適スル者ヲ分配シ以テ議案ノ審査ヲ擔任セシメ漫ニ大體論ノ可否スル所ニ依頼セス法律ヲ實際的即チ技術上實驗上ヨリ一々ニ調査シ穩當着實ナル見識ヲ以テ可否ノ論定ヲ下シ十分明瞭ニ報告シタル後始メテ議事ヲ行フニ至ラシムルハ議會ニ於ル最モ緊要ナル規則ナリ若シ此規則ナシトセンカ議案ノ運命ハ最初ニ於テ大體論ノ向フ所ニ傾キ又ハ不完全不明備ナル議案モ知ラス識ラス議場ヲ通過スルノ懼レ無キヲ保セス斯ク說キ來ラハ委員ハ議事ト重要ナル關係ヲ有スルモノタルコトハ最早ヤ爭フ可ラサルコトヲ知ラン是レ本法ニ於テ審査ニ付スルノ手續及ヒ委員ノ責任ヲシ

テ特ニ重カラシメタル所以ナラン

○第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

凡ソ法律案其他ノ議案ノ提出ハ政府ニ限ラス各議院ノ自ラ爲シ得ル所ナリ而シテ已ニ議案トシテ議院ニ提出セラレタル以上ニハ其如何ナル議案ナルヲ問ハス之ニ對シ其一部分ヲ變更シ若クハ全部ヲ新ニス可キ議論ハ單ナル一議員ノ見識ノミヲ以テ直ニ議題ト爲スヲ得ス必スヤ一定ノ同意者アルヲ要スルナリ是レ各國普通ノ議則ナルカ如シ但大同小異ハ各其定メ方ニ在ルノミ

本條ノ規則ニ依レハ修正ノ動議ノ議題ト爲ルニハ少クトモ二十人ノ賛成者アルヲ必要トス外國ノ例ニ參スルニ外國ニ於テハ本條ヨリモ尙ホ一層ニ嚴格ナル規定ヲ存スルノ國アリ又貴族院ト衆議院トノ間賛成者ノ定數ニ差異ヲ存スル所アリ是レ衆議院ノ議員ハ貴族院ノ議員ヨリ其數稍多キ國ニ行ハル、ノ制ナルカ如シ思フニ本條ノ二十人ナル定メハ兩院相通シ用ウ可ク即チ貴族院ニ於テモ衆議院ニ於テモ修正ノ動議ハ必ス二十人以上ノ賛成ナクハ議題ト爲サルノ主意ナラン

○第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

本條ハ冒頭ニ「政府ハ」ト掲ケ出タシ其政府ノミニ係レル規定ナルコトヲ明カニセリ抑議案ヲ修正シ又ハ削除スルハ總テ議案ヲ提議シタル者ノ自由ニ任ス可キハ當然ナレトモ本條ハ政府ニ就キテノミ規定シタレハ其議員ノ提議ニ係ルノ場合ニ關セサルヤ知ル可シ然レトモ本條ノ裡面ヨリ直ニ解釋シテ他ノ議案ハ已ニ議案ト爲リタル以上ニハ提議者ト雖トモ最早ヤ之ヲ引戻シ又ハ修正スルヲ得ストノ判斷ヲ下シ得サルカ如シ但シ或ル格段ナル場合ナレハ爲シ得ヘシトカ又爲シ得ヘカラストカ或ハ一定ノ同意者ヲ得テ爲シ得ヘシトカ其規則ヲ細則ニ於テ規定スルハ決シテ差支アル無ケン畢竟細則ナキ今日ニ於テハ本條ニ就キ他ノ議案ノ如何ンヲ論定ス

ル能ハサルナリ

○第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨ

リ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

議案ハ總テ兩院ニ於テ議シ而シテ兩院議決ノ後始メテ奏上シテ裁可ヲ請フモノトス其奏上ハ議案カ最初ニ貴族院ニ於テ議決セラレ終リニ衆議院ニ於テ議決セラレタルトキハ衆議院議長ヨリ又最初ニ衆議院ニ於テ議決セラレ終リニ貴族院ニ於テ議決セラレタルトキハ貴族院議長ヨリ各國務大臣ヲ經テ奏上スルモノトス是レ本

條明文ニ依リ明白ナリ

法律案ニ非サル議案例ヘハ豫算案ノ如キ前ニ衆議院ニ於テ議決スルコト確定セルモノハ最後ノ議決ハ貴族院ニ在ル可キハ當然ナレハ其奏上モ亦貴族院議長ニ於テ之ヲ行フコト明カナリ此場合ヲ除キ一議院ノ提出ニ係ル議案ニシテ其議院ニ於テ可決シタルモ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ如何ン個ハ奏上シ得ヘキ議案ヲ成サ、ルモノナリ此場合ニ於テ其否決シタル議院カ提出シタル議院ニ向テ通知照會等ヲ爲スノ規則ハ他ノ箇條(第五十四條第二項)ノ定ムル所ナリ

○第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ

裁可セララル、モノハ次ノ會期マテニ公布セララルヘシ

本條ハ即チ兩議院ノ議決ヲ經其最終ノ議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ奏上シタル議案ニシテ裁可ヲ得スンハ其レマテナレトモ苟モ裁可ヲ得タルモノハ次回會期マテニハ必ス公布セララル可キヲ規定セルモノナリ

元來議院ノ奏上シタル議案ニ對シ裁可ヲ爭ヒ得ヘキ外面ノ手續ナキヲ以テ其裁可アリタルコトハ公布ヲ見テ始メテ之ヲ推知スルノ外ナシ去レハ實際裁可アリナカラ公布セラレサル場合ノ如何ンハ全ク内部ノ規定ニ係リ之ヲ此ニ論スルニ由シ無シ要スルニ奏上シタル議案ニシテ次回會期マテニ公布セラレサリシトキハ即チ裁可

ナカリシト了解ス可キノ論理ハ前陳スル所ヨリ生シ得ヘシ余ハ斯ク判定ヲ下スノ外他ニ據ル可キノ標準ナシト思考スルナリ

第六章 停會閉會

此章ノ規定ハ憲法第三章帝國議會ノ開閉ニ關スル各條ト相併行ス可キモノナレハ宜ク彼ノ條項ト對比參照スヘキナリ

○第三十二條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

議院法ニ於テハ斯ク明ニ議院ノ停會ヲ十五日以内ニ制限シ其以上

ニ涉ル停會ヲ以テ例外ノ場合ト爲シタレハ若シ日限ヲ付セスシテ停會ヲ命セラレシ場合ニハ十五日ヲ經過セハ停會ハ自カラ解カル、モノタルコト明カナリ

停會ハ閉會ト異ナリ一時議事ヲ停止セラル、ニ過キサレハ一旦解停ヲ得ハ前議事ヲ繼續シ得ヘク敢テ會期ノ改マルモノニ非ス故ニ第二項ニ於テ「前會ノ議事ヲ繼續スヘシ」ト掲記シタリ斯ク停會ノ場合ニ於テハ議事ヲ繼續スルモノタルコト明カナル以上ニハ其裡面ニ於テ會期改マリタル場合ニハ前會ノ議事ヲ繼續セサルノ原則ハ又甚タ瞭々タルモノナラン要スルニ本項ハ停會ノ解ケタル場合ニハ議事ハ停會以前ニ引續キテ効力ヲ完フシ得ルノ規定ナリトス

○第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

衆議院解散ノコトハ已ニ憲法ノ講義ニ於テ畧ホ解説シタリ蓋シ衆議院解散セラル、トモ貴族院ハ其成立上解散セラル可キモノニ非サレハ別ニ停會ノ命ナクトモ衆議院ノ解散ニ伴ヒ停會セラル可キハ憲法上既定ノ法則ナリ故ニ衆議院解散後再ヒ開會スルトキハ前ノ會期已ニ改マリ新會期開始スルモノニシテ貴族院モ亦之ニ伴フノ外ナケレハ衆議院ト同ク前會ノ議事ヲ繼續セス議事ハ盡ク改マリテ新規ニ開始スルモノナリトス此場合ニ於ケル貴族院ノ停會ハ其實閉會ト異ナル無キナリ

前條ノ停會ヲ十五日以内ニ制限シタルノ規定ハ貴族院ニモ亦適用セラル可キモノナリ然ルニ此ニ本條ノ場合ニ於テ貴族院ノ停會若シ十五日以上ニ涉ルトキハ如何シノ疑問ヲ發シ得ヘシ余ハ此疑問ニ對シテハ十五日間ハ停會ノ規則ヲ履ムナランモ十五日以上ハ閉會ト爲リ該會期ヲ全ク終了セリト見做スノ外ナシト答ヘンノミ

○第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此限ニ在ラス

帝國議會ノ閉會ハ停會ト異ナリ一會期全ク終了シタル時ナリ本條ハ即チ會期改マレハ前會期間未決ノ事項ハ全ク無効ニ歸スルノ原

則チ承ケ此ニ新ニ其意ヲ發表シタルモノナリ

但書ニ言ヘル第二十五條ノ場合トハ即チ委員會カ閉會ノ間議案ノ
 審査ヲ繼續スル場合ヲ云フ個ハ本條ノ例外ト爲サ、ルヲ得ス但該
 審査ノ繼續ハ政府ノ要求ニ出ツルカ又ハ議員ノ同意ヲ經ルノ二個
 其一ノ要素ヲ充タサ、ル可ラス是レ第二十五條成文ノ明示スル所
 ナリ

○第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉
 行スヘシ

閉會ハ開會ト同ク勅命ニ由ルモノトス此場合ニハ兩院各別ニ勅命
 ナ奉シ各別ニ閉會ノ式ヲ行ハス兩院各一所ニ會合シテ閉會ノ式ヲ

舉ケ以テ勅命ヲ奉行スルナリ

兩院會合シテ事ヲ行フハ開會閉會ノ場合ニ限り他ノ場合ニ於テハ
 兩院各自ノ手續ニ從ヒ各獨立シテ議事議決其他一切ノ職分ヲ行フ
 蓋シ兩院獨立ハ二局議院ノ本性ナリ即チ儀式上ニ就テハ兩院會合
 シテ事ヲ行フコト有ルモ議事議決ニ此コト無キハ各國議院ノ通則
 ナリ外國ノ例ニ依レハ儀式以外ニ兩院會合スルコト全ク之レ無キ
 ニ非ス佛國ノ如キ然リ斯ル事例ハ決シテ我國ニ行ハル、無シト信
 セリ佛國ニ於テハ憲法ノ改正ヲ議スルニハ上下兩院ノ組織ヲ變更
 シ之ヲ合一シテ一ノ憲法議會ナルモノヲ組立シ其議事規則ヲ變更
 シテ憲法改正ヲ議スルヲ例トス我制ニ於テハ憲法改正ノ議事ニハ

多數決ノ員數ハ通常議事ニ異ナルノ規定ナルモ其議事ハ普通法案ト同一ノ順序ニ從ヒ帝國議會ニ於テ行フモノトス去レハ我國ニ於テハ開會式閉會式ヲ舉行スル場合ヲ除クノ外ハ兩院會合シテ議事議決ヲ行フコトハ我憲法議院法中ノ孰レニ於テモ發見セサル所ナリ

第七章 秘密會議

憲法ニ於テハ會議公開ヲ以テ原則ト爲シ而シテ秘密會ヲ例外ト爲セリ本章ハ則チ其例外タル秘密會ニ關スル規定ヲ詳ニセルモノナリ

世間學者ハ往々議事ヲ公開スルノ理由トシテ説テ曰ク帝國議會ヲ組織スル所ノ議員ハ固ト選舉人ノ代理人ナリ而シテ選舉人ハ一般

國民ナレハ議員カ代理トシテ行フ所ノ議事ヲ本人タル選舉人即チ一般國民ヲシテ聞カシメサルノ道理アル無シト此論ヤ帝國議會ノ性質ヲ辨セサルヨリ出ツル謬説ノミ抑々國民カ選舉ニ依リテ議員ノ職ニ就クハ國民權利義務ノ上ヨリ國務ニ參與スルニ在リテ決シテ民法上ノ代理ニ依リテ其職ニ就キ選舉人ト議員トノ間ニ本人代理人ノ關係ヲ持スルモノニ非ス是レ余カ憲法ノ講義中已ニ説明シ置キタル所ノ如シ斯ク議事ノ公開ハ代理人カ本人ニ向テ代理事務ヲ公ニスルノ理由ニ出テス只公衆ヲシテ議事ヲ聽カシムルモ他ニ支障ナキ理由アルヨリ之ヲ公開スルモノニシテ之カ反對ニ或場合ニハ議事ヲ公ニス可ラサルノ理由アリテ之ヲ秘密ニスルハ法理上

決シテ非難ス可キモノニ非サルナリ

○第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

本條ニ「公開ヲ停ムルコトヲ得」ト有ル以上ニハ議事公開ヲ原則トシ秘密會ヲ例外ト爲スコト甚タ明瞭ナリ故ニ本條第一第二ノ場合以外ニ於テ議事ヲ秘密ト爲スヲ得サルコト又疑フ可ラス即チ第一議長ノ發議又ハ議員十人以上ノ發議ニ依リ議院之ヲ可決シタルト

キ第二政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ以上二個ノ場合ヲ除ク外ハ議事ヲ秘密ト爲スヲ許サ、ルナリ

偕秘密會議ノ場合ニハ議員外ノ者ノ傍聽ヲ許サスト云フモ其會議ニ必要ノ關係ヲ有スル者モ亦一切之ニ列セシメストノ意ニ非ス要スルニ公開ト秘密トハ一般ニ入場ヲ許スト議事ニ必要ノ關係アル者ノミノ入場ヲ許ストノ區別アルノミ去レハ議事ニ關係アル者ヲシテ入場セシメタリトテ秘密會議タル性質ニ些ノ變更ヲ與フルモノニ非ス何トナレハ政府委員若クハ國務大臣等ハ議員外ノ人ナレトモ何時タリトモ議院ニ出席シ及ヒ發言ヲ爲シ得レハナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ秘密會議ヲ解シテ議員以外ノ人ヲ入場セシメサルノ

會議ト做スノ不可ナルコト甚タ瞭然タリ

○第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

前條第一ノ場合即チ議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長其未タ秘密會議ノ可否ヲ採決セサル以前ニ於テ先ツ傍聽人ヲ退去セシムルモノトス而シテ其退去セラル、人ハ全ク議事ニ關係ヲ有セサル人ノミニテ假令議員外ノ人タリトモ議事ニ必要ノ關係アリテ會議ニ列席セル人々ハ決シテ退去セラレサルナリ但或場合ニ於テ議員ヲ退場セシムルノ權ハ議長ニ存ス是レ後條

規定スル所ナリ

「討論ヲ用井スシテ」云々トハ本會ヲ秘密ト爲ス可キヤ如何ノ討論ヲ用井スシテ可否ヲ採決スルヲ云フ此採決ヲ行フ場合ニハ已ニ議事ニ關係ナキ傍聽人ハ議場ニ在ルヲ得サルナリ

○第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

凡ソ公開ノ主義トシテ議場ノ討論決議ハ廣ク局外者ノ傍聽ヲ許スノミナラス尙ホ印行筆記ノ文書ヲ以テ之ヲ世ニ公ケニスルヲ禁セサルヲ通則トス然ルニ秘密會ニ至リテハ全ク之ニ反セリ但傍聽刊行等ヲ許サ、ルノ規定アルモ其決議ノミハ之カ刊行ヲ許スコト有リ例ヘハ秘密會議ニ於テ斯々ノ決議アリタリト記シタル文書ハ余

カ外國ニ在ルノ日屢々之ヲ見タルコト有リ要スルニ「刊行スルコトヲ許サス」トハ外部ニ對スルノ語ニシテ議院自ラ刊行スルハ一モ禁セサル所ナリト解セラル且ヤ是レ專ラ秘密會ニ於ル討論辨明又ハ可決ノ人名其他會議ノ重モナル部分ニ係ル刊行ノミヲ禁スルノ精神ナリト思量スルナリ

219280

明治二十二年十一月印刷
勞英舍印刷所

終